



# 留学だより✈



Vol. 6 Jan

2023年も1ヶ月が経ちましたが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。アメリカに留学中の、14期の大きです。今月は日常のちょっとしたことを取り上げてみようと思います。



## 【Happy New Year!】

アメリカでは、日本のお正月のように新年を祝うというよりもニューイヤーズイブの盛り上がりすごいです。イブのディナーでは、ホストファミリーが過去にホストしたことのあるドイツからの留学生にちなんで、グリーングレープを12個とワインを飲むというヨーロッパの伝統を続けているそうです。12個というのは過去の各月を表していて、思い出しながら食べるというファミリーイベントをしました。その後

はホストファザーとホストブラザーでテレビを見てゆったりし、年明けにはタイムズスクエアのライブ中継を見て年越しをしました。年末にちなんで、日本では笑ってはいけない派と紅白派がいたり、真夜中に初詣に行ったり、元旦のアクティビティのことを話したりしました。お笑いにちなんで、お父さんがタモリさんを知っていたのには驚きでした。ところで皆さんは年末のテレビ番組は何派ですか。

新年の日本では書き初めがあるのと同じように、こちらでもそれらしきものがあります。農場のオーナーの今年のテーマは、No popsらしく、ソーダを飲まないという宣言をしていました。まさにピッタリなテーマです。彼、毎朝ソーダを片手に登場し、冷蔵庫にはトンというほどの炭酸がストックされていましたから。

学校の冬休みの間は、部活も宿題もゼロ。基本的には家族でゆったりと家で過ごしました。ホストがホームスクーリングをしていることもあり、ホストブラザーがスクールのある日に私は一人のんびりと貴重な太陽に当たりながら読書や編み物をしていました。太陽について話すと、晴れの日が本当に貴重です。冬晴れというのが東京に比べると少ないのに加え、朝、学校が始まるのは日の出前、教室には小さな窓ひとつ。スポーツも外が寒すぎてそれどころではありません。これは健康にも精神にも影響してきて、予想外なところで精神的ダメージを受けています。ホストブラザーが持っている太陽と同じ役割を果たす電気を借りたり、放課後の晴れの日には天窓の下で勉強をしたりしています。

年明けの学校は特に変わりなく。日本のように冬休みでセメスターが区切られるのではなく、一月の下旬に突然テストがあり、突然二学期が始まります。なんとも慣れない感覚です。



#### 【Pom Pon の大会がありました】

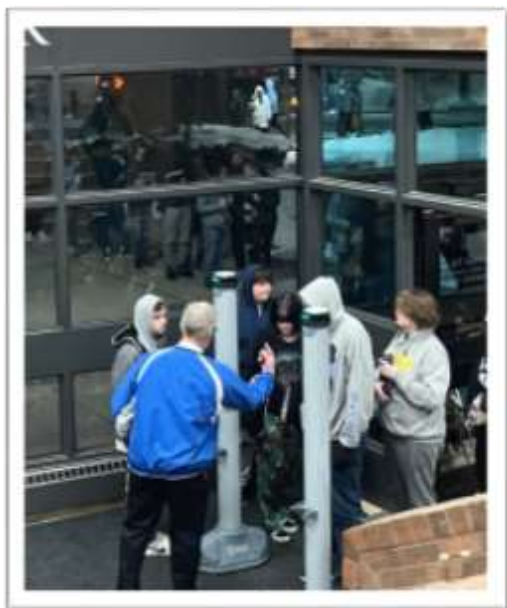


チームとして今シーズン初めてのリージョナルがありました。これに向けたコンペティティブチームが選抜であり、専用のルーティーンをコーチがつくって、みんなでたくさん練習を重ねました。結果としては、残念ながらステイツの次の大会に進出することはできませんでしたが、良い思い出になりました。

ミドルスクールのもっと厳しい学校を見ていると、ドラマの中でしか見たことのないようなキラキラとした世界がそこにありました。

大会とは別に、8th グレード以下の子達にポンポンを教えるワークショップもありました。ラブソングの音楽に合わせてみんなで楽しくパフォーマンスをしました。私たちバーシティーのTシャツの裏には”Brandon Pomer”、子どもたちのTシャツの裏には”Future Pomer”と書かれているのがとても可愛いらしいです。前回同様バスケットボールの試合のハーフタイムに披露しました。

### 【学校のセキュリティーが進化】



以前にも書きましたが、オックスフォードでのスクールシューティングがあったため私の学校ではセキュリティーが厳しいです。以前まではエントランスでの荷物チェックだけでしたが、最近、空港にあるような金属探知の機械が置かれました。目的は朝寒い中、生徒が外で並ぶ時間を縮小するためだそう。実際に列が止まることはほとんど無くなりました。が、冬が深まり寒さも増し、この痛みは変わったのやら変わっていないのやら。学校支給の Chromebook は金属探知のゲートに引っかかるので、それだけをバッグから取り出して自分のからだとその他の荷物でゲートをくぐります。私は一度引っかかりましたが、スマホとイヤホン以外何も心当たりが無かったのでなんともランダムな気もしていますが。

### 【またもやスノーストームがやってきたお話】



本格的に積もったスノーstormは記憶の限り2回目です。丁度、一学期のテストがあったのですが、1日目の夜に雪が降り始まり、翌朝も降り続けたので、学校はキャンセル。勉強したのにテストはなし。テストは延期になってラッキー。複雑な心境でした。そしてなんと、その次の日は道路が凍って危険なためまたもやキャンセル。その次の日は元々、先生たちが成績をつけるための休みの日だったので、合計5日間の休みを獲得。もやもやとしたままの週末でした。テストは、6科目を三日間に分けて行うので、1、2限だけテストを終えたまま中途半端に休みになりました。そして翌週、ようやく全てのテストを終えました。とはいうものの、テスト最終日の次の日はもう二学期の初日。2月1日からと言えば聞こえが良いですが、実際は一週間の真ん中から突然始まったのでなんともむず痒い。

本格的に積もった雪を目の前に子どもがはしゃがない訳がありません。ホストブラザーは毎日、庭に出ていましたが、流石に私はそれについてはいけなかったなので、ソリすべりをちょこっと楽しんだり、写真を撮ったりハスキーと戯れたりしていました。そろそろ雪も見慣れ、冬晴れの少なさに耐性がつき、寒さには納得がいかず。

### 【オープンマインドな文化】

アメリカはオープンマインドというのがすごく特徴的だというのは皆さんもご存知だと思いますが、最近、特徴的なことがあったので少し書こうと思います。数週間前、私の学校の友達が突然亡くなりました。あまりにも急だったので、受け入れてプロセスするのに時間がかかりましたが（今もまだ癒えてはいませんし、考え出したら止まらないものです。）、それに対する学校や人のマインドが日本とはかなり異なりました。まず、校長先生が全生徒と保護者に全体メールで大々的に知らせました。そのスタンスとしては、彼女は記憶の中で生き続けるし、思い出を大切にしましょうという内容で、臨時で追加のカウンセラーが数日間、学校に来たりメールや電話のツールを提示してくれたりしました。それから、スピリットデイとしてイエローデイがありました。彼女の好きな色の黄色を身につけて、彼女の人生をお祝いしましょうというテーマでした。お葬式も誰でも来ていいよ、という感じ。友達同士でハグをいつも以上にしたり、私のホストファミリーや周りの人が「あなたのために私たちはここにいるよ」と言ってくれたり。日本では他の人の感情に配慮して静かに慎ましくする様な雰囲気・文化のように感じますが、こちらではそうではありません。他人への配慮深い文化は素晴らしいと思いますが、助けよう、みんなで乗り越えようというスタンスが強く感じられるこちらのオープンな文化に心地よさを感じました。

読んでくださりありがとうございました！いやはや、2023年になってからもう1ヶ月が経ったというのはなんとも恐ろしい。もっと恐ろしいことに、留学も残り半分を切りました。今年も悔いのない素敵な一年になることを望むところです。

